

様式(細則 5-2)

平成23年 2月10日

浜田市議会議長 牛 尾 博 美 様

議員名 道 下 文 男



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成23年 2月 2日 ~ 2月 4日

2. 視察又は訪問先

■ 佐賀県 武雄市

■ 長崎県 長崎市

3. 調査経費 5 5、9 9 3 円

◇ 交通費：32,764 円

◇ 宿泊代：20,450 円

◇ 資料代：2,479 円

◇ 手配料：300 円

4. 調査研究活動の概要

佐賀県 武雄市

◎行財政改革について

長崎県 長崎市

◎漁業の活性について

①育てる漁業の取り組みについて

②魚価の付加価値アップの取り組みについて



浜田市議会議長 牛尾博美 様

会派視察報告書

下記の通り視察を行いましたので、その結果を報告します

記

- 1、期 間 平成 23 年 2 月 2 日（水）～2 月 4 日（金）
- 2、視察先 ① 佐賀県武雄市
② 長崎県長崎市
- 3、参加者 浜田市議会「創新会」5 名
高見庄平、中村建二、牛尾博美、三浦保法、道下文男

4、調査の概要

■佐賀県 武雄市

（1）行財政改革について

■長崎県 長崎市

（1）つくり育てる漁業の取り組みについて

（2）魚価の付加価値アップの取り組みについて

5、視察に至った経緯

□武雄市：2006 年 4 月に、現市長の樋渡啓祐氏が初当選し、武雄市の行財政改革をユニークな発想で推進し、大幅な改革を成し遂げたと聞き及んだ。折しも平成 18 年に同僚が行っており、大変感銘したとのことであり、視察を求めた。

□長崎市：浜田港と同じ特三漁港である長崎港を配した、長崎市の漁業活性の取り組みについて、牛尾議長の提案により視察を求めた。

6、視察の内容

① 行財政改革の取り組み【武雄市】

1) 市の概要

- ◇市町村合併 : 平成 18 年 3 月（武雄市、山内町、北方町が新設合併）
- ◇人口 : 51,489 人（平成 22 年 4 月 1 日住基台帳）
- ◇市域面積 : 195.44 k m²
- ◇地理、地形 : 佐賀県の西部にあり、市の中心駅名「武雄温泉」で知られる。低山、盆地、川沿いの平地が入り込む地形である。
- ◇産業 ①工業 : 陶磁器の生産が盛ん。
- ②農業 : 市域の 23%が田畑であり、全域で農業が行われている。主な農産物は米。
- ③企業 : 豊田合成九州、オムロン武雄

2) 市の行政

◇市長 : 樋渡啓祐 ・平成 18 年 4 月 16 日初当選
 ・平成 20 年 12 月 29 日再選
 ・平成 22 年 4 月 16 日再選

◇市職員数 : 425 人 (市長事務部局 : 335 人、教育委員会 62 人他)

◇議員定数(条例) : 26 人

◇人口と市民 1,000 人あたりの職員数推移 (単位 : 人)

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
人口(住基台帳)	52,546	52,231	51,881	51,599
職員数/1,000 人	7.54	7.26	7.13	7.11

◇決算状況(普通会計の収入額) (単位 : 千円)

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
歳入総額	19,776	20,493	20,619	24,047
地方税収入	4,966	5,437	5,521	5,273
地方交付税	6,741	6,627	6,835	7,125
地方債発行額	1,751	1,935	1,754	1,556

◇財政状況 (単位 : 千円、%)

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
地方債残高(普通)	25,715	25,653	24,999	24,333
充当可能基金	8,299	9,469	9,725	8,194
財政力指数	0.47	0.49	0.51	0.50
経常収支比率	94.3%	93.0%	92.4%	87.1%
実質公債費比率	16.2%	15.6%	15.4%	14.6%
将来負担比率		89.0%	75.9%	63.9%

3) 武雄市の総合計画(19年度~28年度)

① 基本理念

◇『ユニバーサルデザインのまち』を目指す

市民と共に次世代につなぐ風格ある都市づくりを行い、「武雄に生まれ育って良かった、住んでよかった、訪れてよかった」といった元気な、ぬくもりのある、人が輝くまちを。

◇『均衡ある発展』を目指す

合併した三つの地域の自然や歴史・文化などの特色を生かし、佐賀県西部地域の中核都市として、全市民が一丸となった「オール武雄チーム」地域格差が生じないように。

② 主要指標の見通し

◇『若年層が定住できる環境の整備』に向け、子育て支援の充実、企業誘致を積極的に進め、平成28年の人口を52,300人と設定する

4) 視察査事項その1：行政改革について



ユーモアを交え、熱心に話される樋渡市長

(一.) “市長トップダウン”による改革の取り組みについて

◆樋渡市長じきじきに、約1時間にわたり説明及び質疑応答をして頂いた。

内容は、

- ①平成22年4月1日付の“前へ！もっと前進”をタイトルとした「みんなの政策集」について
- ②この4年間で議会と密接に連携し、500項目以上にわたる企画・政策・事業を展開してきた。
 - ・武雄病院の民営化
 - ・SUMCO独身寮の誘致 → (イ) 流入人口の増加
(ロ) 観光客の飛躍的な増加
- ③この4年間は、ホップ・ステップ・ジャンプのステップである

(二.) 基本理念実現のための「具約：42」による改革の取り組みについて

◆42項目の中で16項目は達成、11項目がほぼ達成、遂行中が15とこのことで達成率は80%であり、今後とも“ぬくもりのある元気な新・武雄市”の創出の検証

(三.) 独自の“活性プロジェクト”による改革の取り組みについて

内容は、

19年度

- ◆総務部 ----- 総務課、広報課、財政課、税務課
- ◆企画部 ----- 企画課、行政改革課、市民協働課、男女参画課

- ◆営業部 ----- 戦略課、観光課、農林商工課、競輪課
- ◆くらし部 ----- 福祉課、健康課、市民課
- ◆こども部 ----- 未来課、支援課、食育課
- ◆まちづくり部 -- 建設課、都市計画課、環境課、下水道課

20年度

- ◆営業部 ---- レモンガラス課を新設、農林商工課 -- 桜門朝市係を新設



いのしし係を新設

観光課 -- 九州物語係の新設

戦略課 → 企業立地課へ

21年度

- ◆総務部 + 企画部 = 政策部
- ◆営業部 ---- いのしし課を新設、競輪課 → 競輪事業所へ変更
- ◆収納対策室を新設
- 支所まちづくり課環境係の本庁一元化

22年度

- ◆営業部 ---- レモンガラス課の廃止し、特産品課を新設
- ◆政策部 ---- お結び課の新設
- ◆くらし部 -- がん検診率向上課を新設
- 支所総務課地域振興係の廃止

と、市民に分かりやすい活性化プロジェクトを提案し、職員のモチベーションアップを図った。

《感想》

- 「素晴らしい！」の一言である。超忙しい公務を縫って我々の視察にお付き合いして頂いた。冒頭から行政への熱い思いを、30分ばかり一気に語って頂いた。非常にユーモアを交え、解り易く人を引き付ける話をされた（北海道恵庭市・中島市長の若き日あたりの感じか？）。
- 印象に残った樋渡市長の話
 - ◆職員は、市民からの意見に対して「出来ない」ではなく、「こうすれば出来る」と説明するように諭している。
 - ◆“名は体を表す”、“器が人を育てる”で営業部部長、戦略課課長、係長と名札をつけて仕事をすると、自然とその気になる。
 - ◆議会での答弁は、“やる”か“やらない”。意思決定は公の場で行い、根回しは徹底してやる。
 - ◆職員採用での有能確率は、正規採用で2割、1Uターン採用で5割、民間採用

ではその上が期待できる。

□ 今後の仕事

- ◆民間譲渡した市民病院の医師、看護師の確保。そして、リハ・カレの併設。
- ◆情報発信は終わった。あとはこれまでの事業を全国に繋ぐことである。
- ◆庁舎内での挨拶運動が怠慢となっている。挨拶することには経費がかからない、しかも大きな効果を多方面において発揮する。

□ 議員との意見交換

- ◆浜田市の自治区制、及び副市長制について「全市が一体となって、はじめて合併効果が表れる。まずは全市、そして旧町村というスタイルをとるべきである。」との熱いエールも含めて意見を頂いた。
- ◆職員より市長の素顔、要望を伺ったところ、「よくやられている。スピード感がすこぶるあるので、うかうか出来ない」「これまで通りの市長であってほしい」とのことであった。

5) 視察事項その2：財政改革について

市長に1時間程度お付き合い頂いて、その後ブランド化戦略について担当課より説明があった。

■イノシシ肉は、年間900万円の売り上げがあるものの赤字計上とのこと。

■レモングラスは、加工品等々で年間2,000万円の売り上げで、40～50万円/10aの純利益があり、今現在4法人で2.5haを栽培しているとのこと。

■外国製品が格安で脅威ではあるが、ブランド化を図ることで外国製品より2～3倍の値で市場でさばけるそうである。

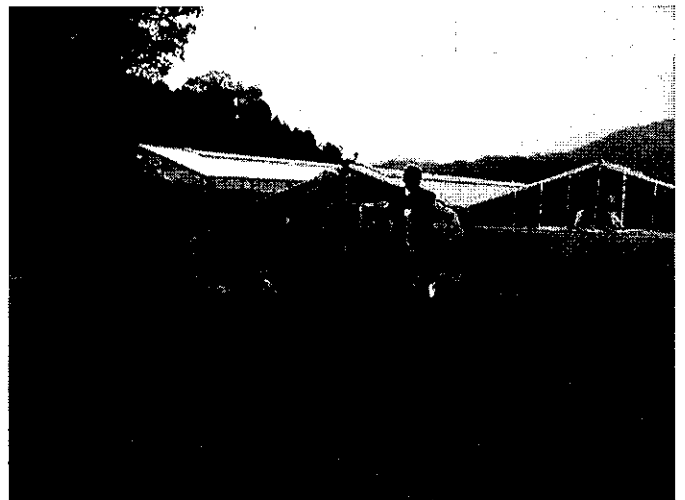
■病気には強いが、バッタ、ハダニが好物にしている対策を研究中とのことである。

■今現在、レモングラス、キウリ、チンレンサイ、イチゴがブランド化を進めているが、2017年までに20品目のブランド化を目指すとのこと。

(物産センター、がばいばーちゃん像の前で)



(レモングラス農場で法人代表から説明を受ける)



2 漁業の活性【長崎市】

1) 市の概要

- ◇市町村合併 : H17 (平成香焼町, 伊王島町, 高島町, 野母崎町, 三和町, 外海町を)
- ◇ " : H18 (琴海町を編入合併)
- ◇人口 : 441,177 人
- ◇面積 : 406.40 k m²
- ◇地理、地形 : 市の形状は全国でも数少ない“すり鉢”状となっており、中心部は三方を山で囲われていて、住宅地の多くは山の斜面を利用している。長崎港の外海は、急峻な海岸線が多く河口部などの僅かな平地に漁港と集落が点在する。
- ◇産業 ①観光 : 観光客数 5,559,500 人 / 平成 20 年 (グラバー園、原爆資料館)
- ②造船 : 三菱重工・長崎造船所
- ③水産業 : 漁獲高 96 億円、水揚げ高 153,000 トン

2) 市の行政

- ◇市長 : 田上 富久 平成 19 年 4 月初当選 (S31 年 12 月 10 日生)
- ◇市職員数 (H22.4.1) : 3,881 人 (市民 1,000 人当たりの職員数 : 8.80 人)
- ◇議員定数(条例) : 40 人 (現在 49 人)
- ◇人口と市民 1,000 人当たりの職員数推移 (単位 : 人)

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
人口(住基台帳)	451,738	448,911	446,668	443,617
職員数/1,000 人	7.33	7.21	7.26	6.84

- ◇決算状況 (普通会計の収入額) (単位 : 千円)

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
歳入総額	19,776	20,493	20,619	24,047
地方税収入	4,966	5,437	5,521	5,273
地方交付税	6,741	6,627	6,835	7,125
地方債発行額	1,751	1,935	1,754	1,556

- ◇財政状況 (単位 : 千円、%)

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
地方債残高(普通)	25,715	25,653	24,999	24,333
充当可能基金	8,299	9,469	9,725	8,194
財政力指数	0.47	0.49	0.51	0.50
経常収支比率	94.3%	93.0%	92.4%	87.1%
実質公債費比率	16.2%	15.6%	15.4%	14.6%
将来負担比率		89.0%	75.9%	63.9%

3) 長崎市の基本構想（平成 12 年 12 月 22 日策定）

① 基本理念

- ・ 活力ある市民社会の形成
- ・ 平和の希求と人権の尊重

② 将来の都市像

- ・ 活力と潤いにあふれ、歴史がいきづく交流拠点都市・長崎

③ 政策目標

- ・ 安らぎと潤いのある環境都市
- ・ 生きがいと思いやりに満ちた福祉都市
- ・ 機能的で魅力あふれる空間調和都市
- ・ 人間性を育む個性豊かな国際平和文化都市

・ 賑わいに満ちた独創性豊かな産業新生都市

4) 視察目的その 1、育てる漁業の取り組みについて

『長崎市の水産業』

① 長崎の漁業

- ・ 沿岸漁業＝五島灘、橘湾、大村湾にて
- ・ 遠洋漁業＝東シナ海、黄海

② 水産加工業

- ・ 煉り製品
- ・ 煮干（全国 1 位）

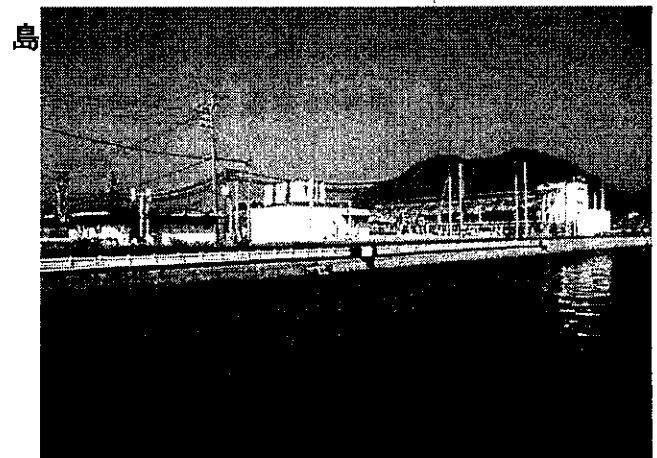
★ 全国主要漁港水揚状況（平成 21 年）

順位	水揚数量		水揚金額	
	産地名	数量(万 t)	産地名	金額(億円)
1	銚子	22.4	福岡	541
2	焼津	19.2	焼津	411
3	八戸	13.9	三崎	337
4	松浦	13.4	■	■
5	釧路	12.6	根室	236
6	■	■	銚子	234
7	境港	11.9	八戸	217

（中田副議長からの挨拶）



「水産センター 牧島」



③ 長崎魚市場

- ・ 全国有数の規模と取扱数量を誇り、底曳の赤モノの取扱量が多い。
- ・ 県外船、中国船の水揚高が約 2 割占める。

④ 漁業就業者

・経営体数、漁業就業者数が多いが減少率も高い。

⑤ 水産振興の推進体系

- ・地産地消の推進 ----- 生産者と消費者の顔の見える関係
- ・資源の持続と創り育てる漁業の推進 ----- 水産基盤の総合・計画的な推進
- ・魅力ある水産業に ----- 活力ある組織・人づくり
- ・長崎ブランドづくりで食生活に彩りを ----- ブランド化と情報発信

(一)「つくり育てる漁業」の取り組みについて

(真鯛の養殖生けすにおいて、真剣な面持ちで管理責任者の説明を聞く)



長崎市には、創り育てる漁業の基地として、

- ①「長崎市水産センター（牧島）」----- 昭和49年4月1日開設
- ②「 " " 高島事業所」----- 平成13年4月2日開設

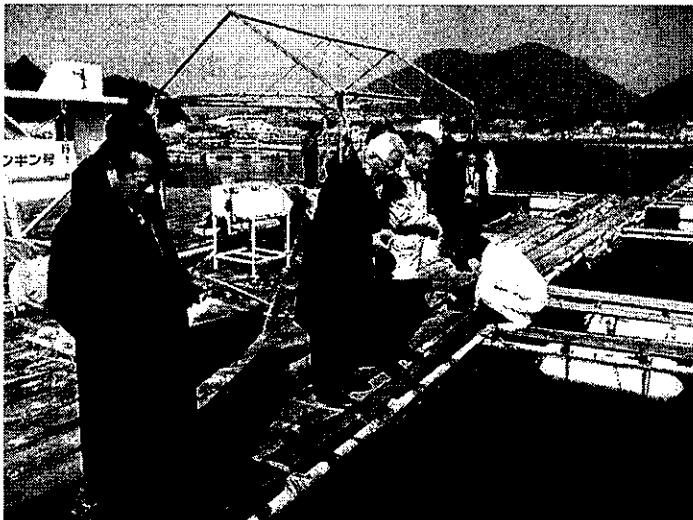
	運営形態	主たる事業	人員
センター牧島	市が直営	種苗の生産、供給	正規職員9人他
" 高島事業所	民間に業務委託	魚介類の養殖、加工	" 1人他

が
あ
り、
概

要は

である。

当日は、水産農林部長の溝口さんの取計らいで、水産センター牧島での真鯛やアワビの養殖施設を視察させて戴いたが、先週までの大寒波が嘘のように収まり、素晴らしい天気
に恵まれた視察となった。



(可愛い鯛の子どもに餌付けをする)



(4・5センチに育った鯛子を塩ビの桶を使って放流する)



市役所会議室で、市議会の中田副議長から市政について、そして牛尾議長と親交のある溝口水産農林部長に、長崎の水産業の概要について説明していただいた。部長の説明を伺ううちに、非常に熱心に取り組まれている様子が言葉の端々に感じ取られ、非常に心地よかつた。

説明の後、水産業振興について活発な意見交換が行われた。長崎市は、海岸線の周囲では日本一であり、沿岸漁業の種類が大変に多く、魚種が豊富とのこと、又加工業も非常に盛んで煮干しの生産量は全国一位であるとの

こと。しかしながら、一次産業の大きな課題ではある、後継者不足が深刻になっていることや、生産人口の高齢化が追い打ちをかけているとのことであり、若者にとって魅力的な水産業へと一刻も早く道しるべを示さなくてはならないと強く訴えられた。

残りは、現地視察の水産センターへの道中と言うことで、忙しい溝口部長とはここでお別れしてバスに乗り込み、多良センター所長や、村瀬水産振興係長の説明を聞きながら牧島の現地へ到着した。

まず、体験ツアーであるグラスボート（遊覧船）での視察と言うことだった。

これは、

- ①養殖いかだまで船で行き、餌付けをする。
- ②魚を船上から放流する。

③放流した魚が、自然の海で無事に泳ぐのを見届ける。

とすることであり、

私たちは、初めてのことであり、興味津々で真鯛

の子の放流を体験した。

☆センターの施設に入り、アワビの養殖状況を視察させて頂いた。



ここでは、「ハイブリッドアワビ」と言ってエゾアワビとメガイアワビを掛け合わせ、旨みがあって尚且つ成長の早いアワビを放流用として育てているとのこと。

又、昨年の夏は温度管理（アワビは高水温に非常に弱い）に非常に苦心されたそうである。それから種苗生産は、管理が非常に難しく、採算ベース的にも苦勞が多いとのことであり、研究のやりがいもあると本田係長が言っておられた。

（ハイブリッドアワビの養殖の説明を受ける）

四季それぞれに真鯛、ヒラメ、トラフグ、そしてアワビ、車エビ、岩ガキなどなど年中、施設内や湾内を飛び回っておられるそうです。頑張っていたきたいと思います。

（2.）魚価の付加価値アップの取り組みについて

☆センターから、長崎駅の迄の道中で村瀬係長から説明を頂いた。

①雑魚や売れ残りの魚を加工して付加価値をつけ、農水産物直売所をもっと活用して利潤を上げる。

②漁業者、商工会、観光と連携した“イベント”を開催する。

◆ハモ祭り ----- 生産者が喜んだ（村瀬さんの感想）

◆トラフグ・かき祭り ---- 消費者が喜んだ（ " ）

◆伊勢エビ祭り ----- 今後取り組む予定

③加工業者を誘致（生産者と加工業者とが連携した取り組み）

（例）干しなまこを中国に（〇万円/kgで売れる）

④以西底曳網で捕れる魚のPRを

◆学校給食（40,000食）をポイントだと考えている

⑤アンテナショップの活用

◆販路拡大コーディネーターを配置（九州、そしてアジアに発信）

◎インターネットの活用を！！

と、村瀬女史が最後におっしゃった。

終わりに

武雄市、長崎市ともに非常に気持ちの良い、そして心配りある対応をして頂いた。
我々も、今一度初心に帰り、浜田市の活性に頑張りたいと思った。

